

午前11時零分再開

○議長（堀尾俊浩君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、8番内田恵三議員の質問を許可いたします。8番内田恵三議員。

（8番内田恵三君登壇）

○8番（内田恵三君） 皆さん、おはようございます。本日、2番目の一般質問をさせていただきます内田恵三です。朝倉市は今、人口減少、少子化、さらには水害からの復興と、その中で復旧・復興の中で、先日起きました贈収賄事件は本当に悲しくて残念でならない出来事でした。これから朝倉市は、二度とこういうことを繰り返さないように、高い、高度なチェック機能を持って接していかなければならないと思っております。そういった中で、これからの明るい朝倉市にするためには、私はいつも思うんですが、有名な人のことじゃなくて、私たちの先人たち、郷土に生まれ育った先人たちのことをきちっと顕彰しながら、それを基に、新しい地元に根ざした朝倉のまちづくりをしていかなければならないという観点で今日は質問させていただきます。よろしく願いいたします。

（8番内田恵三君降壇）

○議長（堀尾俊浩君） 8番内田恵三議員。

○8番（内田恵三君） まず緒方春朔の件について質問をいたします。

19日の一般質問で熊本議員のほうから、立派な質問がありましたんで、私がまたあえて言う必要はないのかもしれませんが、私は、出身が秋月小学校で、小さいときから緒方春朔の教育を受けてきましたんで、少しだけ補足をさせていただきます。

当時の緒方春朔が生きた時代、秋月藩240年の中で、秋月藩中興の名君と言われました8代黒田長舒公の時代、この方は、皆さん御存じのように、高鍋の秋月家から養子に來られ、その父が秋月種茂、その伯父さんが、ケネディ大統領が尊敬しました上杉鷹山公です。そういった中で、私は、これを秋月家の生んだ三名君と命名し、今、秋月三名君を、米沢、高鍋、秋月とフォーラムを開催しながら、すばらしい江戸時代の秋月家の人たちの半生を顕彰していこうと思っております。

そういった中で、その黒田長舒の時代は、福岡藩主が幼少であったために、大事な仕事である長崎警備に当たっております。そういった中で、秋月には、長崎からいろんな文化が入ってきております。長舒のやった治政の中に、いろいろあるんですが、稽古館の拡充、または長崎から取り入れた目鏡橋の建設、その他多くの人材を登用しております。そういった中で、秋月藩の中は一番有名な原古処先生が活躍されたり、また、その娘、原采蘋、封建時代とかくうちに閉じこもりがちな女性の生き方の中で、当時、一生独身を通し、漢詩をもって全国を漫遊し、生きた姿は、今、全国のファンがいっぱいできております。そのほか、島原陣図を描いた斎藤秋圃、その他いろいろおられるんですが、そういった中で、緒方春朔を人材登用しまして、秋月藩医として秋月に採り入れ、そして、緒方春朔は天然

痘に立ち向かったわけです。天然痘は、人類史上、もうずっと人類を悩ませてきた問題ですけれども、1980年にWHOが世界撲滅宣言をやりまして、今はもうないということになっておりますけれども、この方が、今の新型コロナウイルスが蔓延しています今この時代に、そういったすばらしい方がこの朝倉市におられたということは、非常に私たちにとっては誇りであり、また、当然生かすべき問題であるというふうに私は思っております。

それで、この朝倉市がコロナ対策をやっていく上でも、緒方春朔をシンボルとして、政策の核に据えて、そして情報発信とともに取り組んでいただきたいと、私は思っております。

そういった中で、以前、小中学校に、まず地元の人たちに教育をするために読本を配付したという経緯もあったそうですが、またその再配付とか、まず教育が一番大事だろうと思いますけれども、さらに春朔という名前を使いまして、感染症に取り組む姿勢を積極的に取り組んでいただきたいと思っております。その辺、行政のほうはどのように思われておるか質問したいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） これまでも申し上げておりますけれども、まず、本市のホームページでふるさと人物誌というのがございまして、そこに順次朝倉市関係の偉人と言われる方々を御紹介しておるわけですが、その第1話が、「わが国種痘の祖 緒方春朔」ということで掲げさせていただいております。

また、今年度、朝倉市秋月博物館の3周年記念式典というのを計画しておりまして、緒方春朔種痘成功230年記念「秋月藩医 緒方春朔」展も計画をしているところでございます。日本で初めて、緒方春朔が人痘種痘に成功した時代的背景、またその活動、支援者等に焦点を当て、その偉業を顕彰しますとともに、市内外に情報発信をしてみたいと思っております。

また、市報でも、この230年の節目の年に合わせまして、緒方春朔について掲載をし、市内の方に功績を伝えてまいりたいと考えているところでございます。

また、このほか、一番研究をされております富田英壽先生——ドクターですが——また葉室麟さんの秋月記などでも、この緒方春朔の種痘について記載がありますので、そういうところも含めまして、総合的な御案内ができたらと考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） ぜひとも積極的に取り組んでいただきたいと思っております。

続きまして、朝倉市の市史編さんに対して質問をいたします。

分かりやすい話ということで、隣町、筑前町の話をちょっと例に出してみますと、筑前町は、平成17年、朝倉市より1年前に旧夜須町と三輪町が合併をしまして、既に合併から10年後には筑前町史を編さんしております。さらにいえば、旧三輪町史は平成13年、夜須

町史が平成3年、もうほとんど10年、15年単位で町史の編さんを行っているわけですが、この朝倉市に目を転じますと、平成18年に旧甘木市と朝倉町と杷木町が合併しておりますが、旧甘木市におきましては、昭和56年と昭和57年、朝倉町が昭和61年、杷木町が昭和56年というふうには、既にもう40年近い歳月が流れております。市史というのは簡単にはできません。編さんを始めて最低5年、長ければ10年の年月がかかります。そういった中で、朝倉市はいまだ何ら取り組みがなされていない。

私は、この市史というのは、いろんな言い方あるんですけども、ちょっとある言葉を引用しますと、「地域の老人にとっては、長い過去の日々の回想となり、壮年の者には、歴史を基礎として明日の朝倉を考える温故知新の基礎となり、若者には、郷土を知りその伝統を誇りとして地域への愛を育む基礎となる」ということです。これが、やはり私たちの先人たちのやってきたことをきちっと調査、研究し、それをこれからのまちづくりに生かすと。もう一番大事、根幹、まちづくりの私は根幹だと思います。

それで、現在、この朝倉市史に対して、どのようなお考えを持ってあるのか、まず市長にお伺いをいたします。

○議長（堀尾俊浩君） 市長。

○市長（林 裕二君） 市史の編さんについてでございます。

筑前町の例を出されて、朝倉市においても市史を編さんしてはどうかということに関しまして、その市史が持つ意義といったものは、今、子どもにとって温故知新であると。そしてまた、青年にとっては地元を愛することにつながると。高齢者というか、ある程度歳をとった人たちには、郷土を回想することができるということでございます。こういうことが今後の朝倉市にとって、私も必要であると考えております。

「人、自然、歴史が織りなす 水ひかる 朝倉」というのが、現在の朝倉市の計画でございます。こういう観点からしましても、議員が今お話しになられております朝倉市の将来の発展ということについては、まずそこに住む人たちが、地元の歴史をよく知って、それを誇りにつなげていくと、子どもたちの将来の勉学等につながっていくということについては、そのとおりであると思っております。

こういうことからいたしまして、朝倉市史を編さんする意義は非常に大きいと考えている次第でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） 市長のほうから市史の編さんの意義を十分認識していただいたと思います。それで、言いましたように、まずは、もう朝倉市ができて14年ですか、今から作っても、早くて20周年ぐらいでしかできないと思うんですが、私は、まず最初に編さんの準備委員会をすぐにでも立ち上げて取り組む必要があると思います。それはなぜかといいますと、40年間の間にいろんな古文書類とか史跡類とか言い伝えだとか、いろんな物が消滅していくわけです。だから、早く常に準備をして、今から5年後、10年後に備えると

いう体制を早くつくっていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） 少し御質問のお答えとしては戻る部分があるかもしれませんが、おっしゃるとおり、市町村史、特に市史につきましては、その自治体の歴史の変遷を学術的かつ系統的に記述しました書籍を刊行することによりまして、史実を後世に伝えるとともに、住民の郷土愛を醸成する重要なものと、今言われましたとおりでございます。

編さんの過程におきまして広く歴史的資料の収集、それから、調査事業を行うことから、資料の散逸を防ぎ、適切な保存が図られる可能性もあります。

市史編さん事業につきましては、朝倉市の歴史や文化を守り、伝える重要な事業でございますけれども、新たな組織が必要ということでありまして、御指摘のとおり、十分な準備期間も必要となります。これは、10年スパン、おっしゃるとおりだと思います。庁内での横断的な体制づくりを検討する必要もございます。

旧甘木市での市史編さんの際でございますけれども、事務局員が7名、延べ7名の職員が従事していたと。それから、市民の皆様の理解も得ていく必要があるというところでもありますので、これらを踏まえまして、現段階では、教育委員会としまして、資料の蓄積を目的として、埋蔵文化財分野におきましては、計画的な調査報告書の刊行、古文書や歴史資料の分野におきましては、適宜所在確認等を行い、必要に応じて専門家の御意見等を伺いながら、適切な保存を助言するなど、現体制で実施できることを取り組んでまいりたいと考えているところであります。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） 結論からいうと何ら変わらない、本当に出す気があるのかというのが見えてこないです、その答弁では。私はいきなりそういう大体制をつくるんじゃないで、まず準備、少人数でもいいから、とりあえず常に準備をしておかなければいけないということです。ですから目標がなければなかなか物事は動きませんので、早く10年後でもいいです。10年後に出すんなら出すで、それに向けての準備に確実に取り組んでいただきたいと思います。何かありますか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 今、準備をすることが大切だとおっしゃいました。そのとおりだと思っています。市史については、市全体で取り組まなければならない非常に大きな仕事だと思っています。それまでには、いろんな作業が要ると思います。教育委員会は、私は、今お話ございましたような、いろいろな資料をどこにどんなふうな形であるとか、それを紛失しそうなときに保存しておくとか、そういうことを作業としてはしておきながら、この市史編さんに向けての準備をしていくことが大事じゃないかなと思っています。

ちょっとずれますけれども、子どもたちに向けての、「わたしたちの朝倉」というのを

作っておりますが、これについては、10年に1度作るという形でこれまでずっと目標を掲げて、そのとおりに進んでまいりました。今回災害がございまして、それが予定どおりできないような状況に今なっております。

この市史につきましても、先ほどから議員おっしゃっておりますように、非常に重要な書類を紛失させないためにも、何年のスパンで計画的にやっていくかという基本的な考えを明確にした上で進めるのが一番望ましいんじゃないかなと思っています。

また、私たちのところは10年でこうやっていくわけですけども、その10年スパンでやるというある程度の期間を決めてすることによりまして、それに関わる人材を育成することができます。最初のときには、先輩、後輩いろいろございまして、若いところからキャリアを持った職員まで入って、それに関係させていただくわけですけども、それを何回か積み重ねることによって、そういうことに対する興味、関心、それから、ノウハウ、そういうことを身につけていきます。まさに、伊勢神宮が期間を決めて建て替えをされる。それは、やはりあの建築の技術をいかに伝えていくかという、そういうふうな長く続くものには計画性があるんじゃないかなと思っていますので、この市史についても同じようなことを考えながらやっぱりやるべきだと思っています。以上でございます。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） 今、伊勢神宮の式年遷宮の話でしょうけども、あれ20年ですね、単位が。ですから、まずきちっと目標を10年でも20年でもいいですから立てて、早急にそういう体制を立ち上げていただきたいと、私は思います。よろしくお願いします。

では、続きまして、秋月街道の件について質問をいたします。

まず、皆さん、秋月街道をよく御存じかどうか分かりませんので、簡単に説明をいたします。

秋月街道とは、小倉の常盤橋から香春とか嘉麻市とか、それから秋月を通過して、小郡の松崎を通り、久留米の府中まで至る道を大体秋月街道と言います。この道は、長崎街道が17世紀半ばにできるまでは、今から500年から400年前は、九州の主要道として、九州から薩摩方面に抜ける幹線道路、したがって、この道はかつて、有名な話、豊臣秀吉も当然通っておりますし、いろんな宣教師たち、キリシタンを伝えた宣教師も通っておりますし、歴史的に非常に意義のある道です。さらに、秋月街道の存在が、秋月の発展につながったのも事実ですけども、そういった中で、これはちょっとこまめに質問をしていきたいと思っています。

まず、平成16年に福岡県の教育委員会が秋月街道という報告書を出し、その意義についてよく調べてありまして、将来の歴史の道の保存整備を図るための第一歩であるというふうに書いております。その後、この史跡に市はどのように対応したかを具体的にお答えをしてください。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○**教育部長（高木昌己君）** 秋月街道につきましては、今御説明がありましたように、秋月を通過しますことから、当地の歴史や重要性を示す歴史的遺産と考えております。名称に秋月がつきますので、おっしゃるとおり、観光資源としても期待をされると考えているところでございます。

また、これまで平成18年に市議会に請願書も出されており、平成23年には、秋月街道ネットワークの会より、市教育委員会へ申し入れがありまして、翌年、嘉麻市の文化財課と協議を行って、その後も関係機関等との協議を行っていくとの回答をしておりまして、ところでございます。しかしながら、当時、先ほど言われました県の報告書等をもとにして、具体的な整備の協議は行われておりませんで、その後の整備自体は行っておりません。

ただ、先ほど観光資源と申し上げましたけれども、この点につきましては、看板の設置等を行っているところでございます。以上でございます。

○**議長（堀尾俊浩君）** 8番。

○**8番（内田恵三君）** すみません、看板の設置はどこにしてありますか。

○**議長（堀尾俊浩君）** 農林商工部長。

○**農林商工部長（石橋一良君）** 失礼いたします。秋月街道での看板というか、高札という形で設置を2カ所、朝倉市のほうでは市内2カ所行っております。まず、1カ所の場所につきましては、322号と秋月街道が交差する石畳のところに設置をいたしてありまして、あと1カ所は、上流側の八丁苑がある辺りに設置をいたしてあります。一応2カ所設置をいたしてあります。以上でございます。

○**議長（堀尾俊浩君）** 8番。

○**8番（内田恵三君）** ちょっとすみません。私がそれちょっと確認していませんので。ただ思うのは、嘉麻市は既に、今言われましたように、平成18年に秋月街道ネットワークの会から合併する前の旧甘木市に請願書を出しまして、秋月街道の整備について採択をされております。嘉麻市のほうは、もう既にその時点で、嘉麻市の指定をして、それで、市のほうからきちっとした看板の設置とかやっておられます。その点、非常に私は朝倉市は遅れていると言わざるを得ないと考えております。

それで、さらにいいますと、去年の秋でしたか、文化庁が歴史の道百選というのをやっております。これは、もう最初にやられたのは平成10年頃だったと思うんですが、その後、追加でなったばかりです。ところが、この歴史の道百選に秋月街道が選ばれたということは非常に喜ばしくて、これからの文化活動に役に立つと思うんですが、一切、市のほうからの広報なり宣伝、活用がなされていない。もうなしのつぶてとっていいぐらい何もなされていない。

そういつて、ただ、顕彰するために、財政的な支援も文化庁は行うということになっておりますけれども、今後どのように対応するかを具体的にお答えをしていただきたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） 歴史の道百選につきましては、歴史の道の保存と活用を広く国民に呼びかけ、歴史の道を顕彰するために文化庁が行った事業、今申されたとおりでございます。平成8年に全国で78件、その後、令和元年に36件が選定をされまして、全国で114件が選定を現在されております。福岡県関係では、平成8年に2件、それから、昨年度、秋月街道を含めまして3件が選定され、福岡県内では5件ということになっております。秋月街道につきましては、広域的な街道のうち、嘉麻市と朝倉市の一部で石畳が残るなど、歴史的な景観が残っておりますので、嘉麻市の千手宿から新八丁峠、旧八丁峠を経て、秋月の目鏡橋までが選定をされていると承知をしております。

今後は、昨年度歴史の道に追加選定されたことにつきまして、議員申されましたとおり、情報発信を積極的に行っていきたいと考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） 情報発信はもう当然のことなんですけれども、具体的に何をやるかということで、これ提言ですけれども、4点言うだけ言っておきます。

まず、既に行われた調査をもとに、秋月街道に関する沿線の史跡を市の文化財に指定をするということが1点。2点目が、これは当然ですけれども、案内板を設置して、保存への理解を促し、不用意な破壊から史跡を守ること、これが2点目。さらに3点目が、年次計画で、石畳とか道標、籠立場、茶屋跡、石橋などの関連施設が随所に残っております。まず、それを破壊のための調査じゃなくて、保存研究のための調査、活用するための調査をやっていただきたいと、これが3点目。それから、4点目は、調査に基づいて、特に石畳の破損が年々やっぱり——すばらしい秋月の花崗岩を使った石畳が随所に残っているんですけども——でも、補修が全然なされておられませんので、やっぱり年々傷みがひどくなってきております。だから、その復元整備を行っていただきたいと。

それから、後はもう地元住民や団体との連携を密にして支援をしていただきたいということです。何かありますか、今の要望に対して。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） 先ほどから申し上げておりますように、市としても歴史財産ということで、今おっしゃることにつきまして、今後、機会あるごとに考慮をさせていただきたいと考えております。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） とにかく具体的に取り組んでいただきたいと、よろしく願いをいたします。

では、続きまして、女男石護岸施設について質問をいたします。

これも簡単に説明をしますと、皆さん御存じかどうか知りませんが、女男石というのは、昔、甘木から秋月に上ってくるときには、秋月は大体、秋月谷を上ってきて狭い

谷の中にあるわけですが、ちょうど一つのランドマークとして、大きな石が2つ、男石と女石を並べたところがあります。ここはちょうど小石原、江川方面から流れてきた川が、上秋月の谷を通過して、そして、筑後平野に向かって、扇状地の頂点で筑後平野に向かうというところで、大きくほぼ直角に川は曲がる場所です。そこは、歴史的に見ても、ここを治めることが、秋月にとってみれば、利水・治水両面において大事なことでした。当時は、米経済ですから、この女男石を治めることによって、荒川井手をつくり、たくさんの水田を潤して、経済的な力をつけてきたりとか、そういったものです。築造につきましては、秋月初代藩主黒田長興が入部してすぐに、筆頭家老でありました堀平右衛門に命じてつくらせたと。それだけやっぱり女男石を治めることが、藩にとって非常に大事な事業だったわけです。

これが、今でも現役遺産として動いています、400年たつて。余りにもそれがすばらし過ぎて、皆さん、そのありがたみがよく分からなくて、不幸なことに、数年前に道路拡幅で埋設、破壊されるという話が起きました。でも、幸いそれは県指定になり、県道が迂回することによって守られたわけですが、今その路線が替わった道路の工事が今着々と始まっております。そういった中で、この女男石を、朝倉市の場合は3つのダムがあり、中村哲さんが参考にした山田堰もある。とにかく水に関しては非常に誇れるまちだと思うんです。そういった中で、山田堰よりも古くて、現役遺産として頑張っている女男石を、これからやっぱり活用していかなければならないと私は思っております。

そういった中で、400年間現役で無事だった女男石も、2年前の水害で石垣の一部が破損して、今年度修復工事が行われるということですが、言い伝えによりますと、あそこは、三重の石垣がめぐるらせてあると。そして、特異な工法として、急流ですので、前に大きな石を、捨て石を置いて水力を弱め、そして、見事にそれは400年間機能してきているということです。

それで、そういった中で、石垣の修復工事に伴って、当然、石垣を解体するわけでしょうけども、その400年前の治水技術、土木技術のすばらしさをきちっと分かるように、今回は発掘調査じゃなくて修復だけかもしれませんが、そういった中でも、そういった先人の知恵が分かりやすくなるような広報活動とかそういうのをやっていただきたいと思います。まず、じゃあこの点について。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） 今申されましたように、平成30年7月に水害で石積みが破損をしましたので、河川管理者であります福岡県と協議を行った結果、朝倉市が県から委託を受けるという形で令和元年度に設計業務を行い、今年度——令和2年度に修理工事を実施する予定となっております。工事期間につきましては、破損した石を積み直しますので、上部の石積みを取り除くことから、石積みの裏側の状況を含め、当時の石積みの工夫が見学できることが考えられます。それに基づきまして、工事工程は、まだ現時点では決まっ

ておりませんが、その工夫が見学できるようになりましたら、一般市民向けの現地説明会を企画していきたいと考えているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） ぜひ分かりやすい対応をしていただきたいと思います。

それと同時に、今後の女男石のあり方なんですが、道路工事は始まっておりますけれども、まず最初の計画に基づいて2軒の方が立ち退きをされているんです。それで、そこに空き地ができております。もう一つ、今度路線が変更したことによって、上流側に、河川沿いに三日月型の遊休地ができております。これをやはりうまく利用して、すばらしい土木遺産を皆さんに分かっていただき、さらに憩いができる公園、そんな広い土地じゃありませんけれども、ちょっと工夫を凝らして、いろんな形で活用はできないかと思っておりますが、その辺はどのように思っておられますか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） この今おっしゃった三日月型の土地です。道路の残地になりますけれども、これにつきましては、施設そのものが福岡県の指定史跡でございまして、その残地につきましても、三日月型の土地につきましても、県の所管になりますので、おっしゃることも含めまして、県のほうへ要望等してまいりたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） じゃあ立ち退かれた2軒分の土地はどうなっているんですか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） 一般の方については、ちょっと法律上いろいろ難しい点がありますので、今後考えていくことになろうかと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） とにかく水が朝倉市の売りですので大いに活用していただきたい。絶好のチャンスだと思いますから、よろしく願いをしたいと思っております。

じゃあ続きまして、小田茶臼塚古墳について質問をいたします。

小田茶臼塚古墳というのは、古くから知られておりまして、江戸時代の地誌にも何回も出てきております。その経緯をちょっと少し話してみますと、昔は、小田と小隈のちょうど中間にその茶臼塚古墳が存在するんですけれども、昔はその間は、何か墳丘沿いに道があって、七曲がりといって曲がった道だったそうです。それが、昭和3年、今から92年前になりますけれども、小田と小隈間に真っすぐな道路をつくるということで、前方後円墳の大事なところでありまして後円部です。結局、石室とか——主体部とかあるところなんです。ちょうどそこを削平してしまったということです。そして、そのときに、当時の旧制朝倉中学校の坂本真鈴先生という方が調査されて、当時出土状況の調査とかをされております。さらに、そのときに、もうほとんど処女墳でしたので、短甲とか、それから、いろんな土器類とか武器類とか、一番有名なのは、やっぱり鉄でできた鎧兜ですけども、出ている

んですけども、そういうのが今でも朝倉高校史学部、今郷土館に所蔵されていると思いますが、そういった中で、昭和53年に、これは破壊のための調査ではなくて、国の史跡に持っていこうということで、昭和53年の8月に、1カ月ぐらいの発掘調査がありました。私はそのときたまたま学生でしたので、発掘補助員で参加をしました。もう42年前の話です。そのときに、前方後円墳としてはすばらしい祭祀遺構、須恵器の大がめが検出されたりとか完全に残っているのを見た覚えがあります。そして、その調査結果を基に、昭和54年に思惑どおりに国の指定文化財に指定をされております。

そういった中で、恐らく前方後円墳というのは、前方と後方部だけでなく、周りに周溝があるんです——二重、三重にめぐらした——当然造りとして。そこを含めて、土地の買収とか進められておるようですが、あれから40年もたつのに、いまだに整備が完了しない。ちょっと遅いのではないかなと私は思うんです。その辺について、今の進捗状況をお伺いしたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） 小田茶臼塚古墳につきましては、墳丘の長さが54.5メートル、それから、今申されました周溝まで含めた全長が63メートルということで、申されますように、小型の前方後円墳、古くから地元の方を含めて知られている古墳となっております。

朝倉高校史学部が調査をしたのが昭和49年、昭和50年です。それから、申されましたとおり昭和53年に教育委員会も国指定史跡を目指して調査を行ったと。結果、昭和54年に、言われるとおり国の史跡に指定をされております。

福田台地を中心に、朝倉市、それから、朝倉郡の一部を治めたと思われる有力者の墓であるということで、古墳の重要性から平成6年度より、公有化事業に取り組みまして、平成23年度には全指定地およそ6,400平方メートルの買収を終了いたしております。先ほど言われました周溝の部分も含めて買収を終わっているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） ということは、買収は全部終わっているということですね。そして、問題は、買収の後の整備についてはどのようになっているのでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） 整備の方針ということであろうかと思っておりますけれども、地域の主要な生活道路である市道小隈・小田線が墳丘を通過していると申されたとおりですけれども、この取り扱いについて、申されるとおり、整理、解決する必要があること、それから、道路つけかえには多額の費用が見込まれると——住宅等建っておりますことから。早期の着手はちょっと困難と思っておるところでございます。地元の福田コミュニティ役員さん等へは必要に応じて説明は行ってきているところでございますけれども、あわせて今後も地元や関係部署と協議、連携をしていきたいという考えを持っているところでございます。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） 今の段階ではちょっと先が見えないような状態ですよ。

小田茶臼塚古墳があります福田台地といいますか、福田地区は、本当、史跡の宝庫で、どこを掘っても遺跡が出てくると言われるほど、特に弥生時代から古墳時代にかけての遺構はすごくて、甕棺墓とか石蓋土壙墓、住居址、古墳とかいろんなものが出てきます。有名なものに、近辺には平塚川添遺跡ももうすぐ近いし、有名なのは、以前から有名な栗山遺跡といって鏡とか、それから、貝釧さらには南陵中学校の平塚小田道遺跡、さらに、今、ブリヂストンの入り口のところですけど小田集落遺跡とかいろんなものがあります。そのほかに古墳時代になりますと、有名な卑弥呼の鏡と言われます三角縁神獸鏡が神蔵古墳から出土していると。残念なことに神蔵古墳はもうなくなってしまった。

そういった中でも、とにかく福田地区は遺跡の宝庫でして、弥生・古墳時代にかけては、もう本当隆盛を極めた地区であろうと思います。

そういった中で、平成4年に平塚川添遺跡が偶然にも発見されて、国指定になって、今整備され公開されているわけですが、その周りにこのようにすばらしいものがあるんですから、一体となって、早く平塚川添遺跡と連携して、歴史をきちっと学ぶことができる環境を、この茶臼塚古墳は見事な古墳ですので、そういう環境を早く整備していただきたいと私は思います。いかがでしょうか。

○議長（堀尾俊浩君） 教育部長。

○教育部長（高木昌己君） これまで議員が申されましたとおり、今後のあらゆるところで、その遺跡の大事さというところは検討に入れていきたいと思っております。

○議長（堀尾俊浩君） 8番。

○8番（内田恵三君） 以上で、私の質問は終わりたいと思いますが、なかなか市史編さんにしろ、女男石の整備にしろ、小田茶臼塚の整備にしろ、なかなかいま先がちょっとはっきり見えません。とにかくこの暗い今、朝倉市を変えるためにも、そういった自分たちの財産を的確に生かして活用する体制をつくらにやいけないと私は思っておりますので、またたびたびこういう質問をしたいと思っておりますので、全て前向きに取り組んでいただきたいと思ひまして、私の質問を終わります。

○議長（堀尾俊浩君） 8番内田恵三議員の質問は終わりました。

午後1時まで休憩いたします。

午前11時47分休憩